３．流域の社会状況

３－１　人　　口

櫛田川流域は、松阪(まつさか)市、明和(めいわ)町、多気(たき)町、飯南(いいなん)町、飯高(いいたか)町、勢和(せいわ)村の１市４町１村から構成されており、沿川市町村人口は約17万人（H12）である。櫛田川本川中・上流域に約２万人、櫛田川本川下流部に15万人が生活しており、流域全体の90%が櫛田川本川下流部に集中している。

近年における沿川市町村の人口推移は、櫛田川本川下流域の松阪市、明和町、多気町で増加傾向であるのに対し、櫛田川本川中・上流域の飯南町、飯高町、勢和村は微減傾向である。

表３－１　櫛田川流域沿川市町村人口の変遷

単位：人

市町村名	平成２年	平成７年		平成１２年	
	人　口	人　口	増　減	人　口	増　減
松阪市	118,725	122,449	3,724	123,727	1,278
飯南町	6,891	6,528	－363	6,180	－348
飯高町	6,457	5,915	－542	5,555	－360
多気町	10,106	10,226	120	10,868	642
明和町	21,484	21,853	369	22,300	447
勢和村	5,585	5,418	－167	5,281	－137
合　計	169,248	172,389	3,141	173,911	1,522

注）平成２年、平成７年国勢調査による。
　　平成１２年国勢調査（H13.8.31第１次基本集計）による

３－２　土地利用

櫛田川の沿川市町村は、下流から順に松阪市、多気町、勢和村、飯南町、飯高町となっており、派川祓川の沿川市町村として明和町がある。

櫛田川流域の土地利用状況は、山林が62.8%、農用地が30.7%、宅地等の市街地が6.5%で、自然公園面積も111km²(23.9%)を占めている。

櫛田川沿川市町村の土地利用の現況は、農用地や山地・原野の占める割合が高くなっており、その反面、住宅の占める割合は低い地域である。

表３－２　沿川５市町村土地利用（民有地）面積の推移

項目＼年	昭和52年		昭和62年		平成12年	
	面積(km²)	比率(%)	面積(km²)	比率(%)	面積(km²)	比率(%)
農用地	122	35	117	35	108	30
宅地	22	6	25	7	30	8
山林･原野	204	58	191	57	213	60
その他	2	1	3	1	6	2
総面積	669		669		671	

注）総面積以外は、固定資産税課税に係る評価総地積（民有地面積）
（出典：三重県統計書）

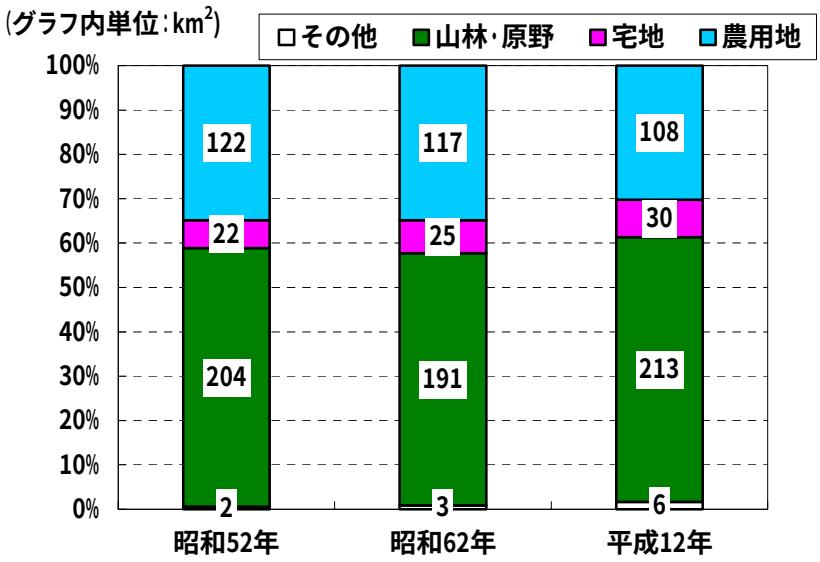


図３－１　沿川５市町村の土地利用の変遷

３－３　産業経済

櫛田川流域の主要産業は電気機械産業、農業（松阪肉牛、茶、椎茸）、食品産業（海苔）等で、櫛田川沿川市町村の農業粗生産額は約178億円（平成12年三重農林水産統計年報）である。特に、松阪市の農業粗生産額は約85億円（平成12年三重農林水産統計年報）で、三重県内市町村別では第３位である。また、松阪牛は全国的に有名なブランドになっている。

産業別の就業者数は、第１次産業の占める比率が全国と比較して高くなっており、逆に第３次産業は全国と比較して低くなっている。

※ 農業粗生産額は、農業生産額から農業へ再び投入される種子、飼料等の中間生産部分を控除したものである。

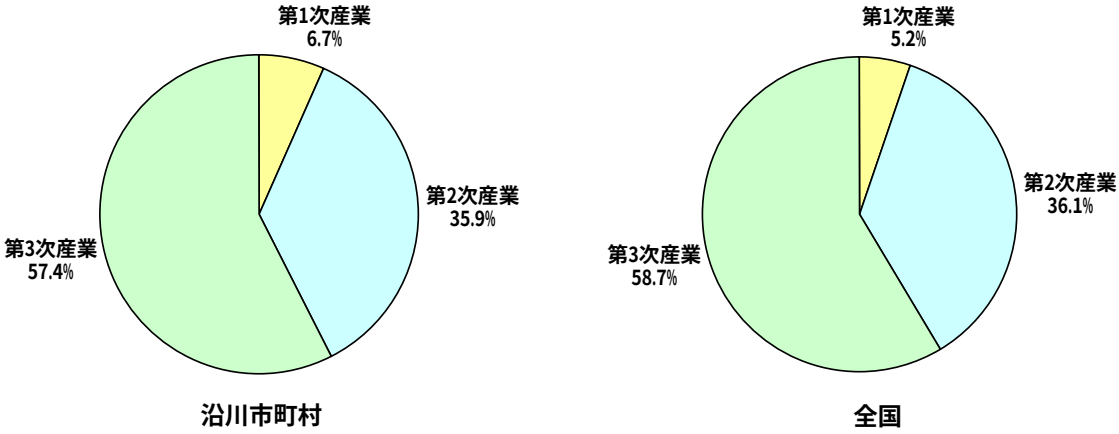


図３－２　産業別就業者の構成比　（平成１２年国勢調査）

飯南茶

飯南町では茶の栽培が盛んで、「飯南茶」の名で販売されている。

【出典：飯南町勢要覧】

松阪牛

全国的なブランドとして名高く、日本一の肉牛として認められている。

【出典：飯南町勢要覧】

松阪木綿

櫛田川下流では、古代より伊勢神宮奉納の神御衣を織る技術が伝承されており、松阪木綿として流通している。

【出典：まつさか物語（松阪市観光課）】

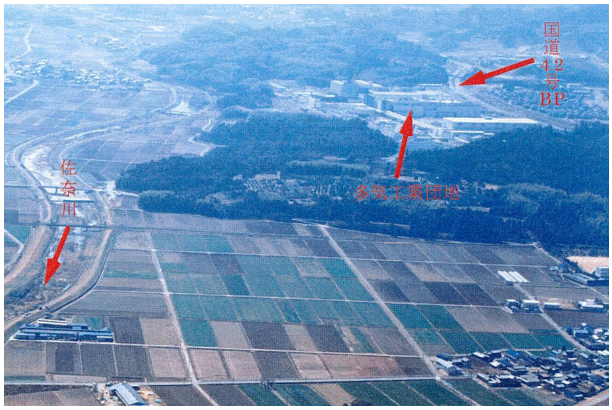
また、三重県は、クリスタルバレー構想に基づき、今後の成長産業であるＦＰＤ産業の企業誘致を進めており、櫛田川流域内の多気町においても「多気工業団地」の整備が進められ、既に誘致された液晶企業が、平成７年より一部操業を開始し、更に工場建設を継続している。

※クリスタルバレー構想とは、「21世紀の成長産業である液晶をはじめとするFPD(ﾌﾗｯﾄ・ﾊﾟﾈﾙ・ﾃﾞｨｽﾌﾟﾚｲ)産業の世界的集積を目指す」ものであり、新しい総合計画「三重のくにづくり宣言」(平成９年)の「第二次実施計画(H14~H16)」で位置づけされているものである。

表３－３　多気工業団地の現況（平成１４年８月現在）

面積	計画面積	約670千m^2
	開発済面積	約340千m^2
	売却済面積	約340千m^2
企業数		４社 （液晶メーカーと関連企業）
就業者数		約3,200人

図３－３　多気工業団地位置図



多気工業団地全景

さらに、櫛田川沿川では三重県の県営事業として土地改良事業が実施されている。

表３－４　土地改良事業一覧

	名称	事業年度(予定)
①	西黒部地区	S63～H9
②	櫛田地区	H5～H13
③	櫛田上地区	H8～H16
④	機殿下地区	H11～H18
⑤	機殿地区	H2～H14
⑥	漕代地区	H5～H15

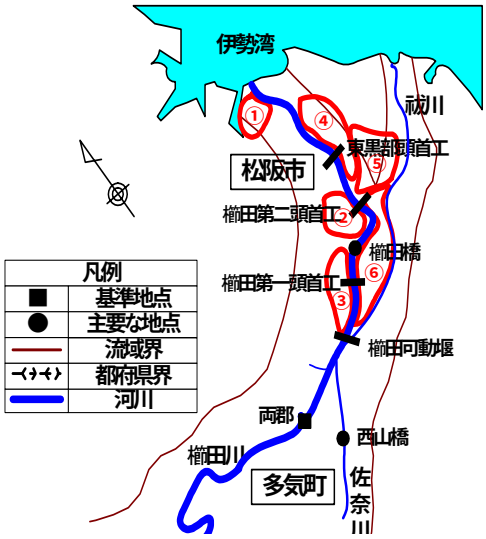


図３－４　土地改良事業箇所

３－４　交　　通

櫛田川流域には、古来より伊勢、大和、紀伊方面に通じる街道（和歌山街道、伊勢本街道）がある。特に櫛田川沿いに通る和歌山街道は紀州藩の参勤交代路、塩や魚の流通路、伊勢参宮の巡礼道として、人と物の流通に役立っており現在は国道166号として利用されている。

また、奈良時代初期に発見されたとされる丹生水銀、下流部の黒部で生産された塩、上流の木材等の運搬に櫛田川を使った舟運・水運が利用された。その後、水運も陸上輸送に変わり昭和初期には見られなくなった。

現在、鉄道ではＪＲ紀勢本線、ＪＲ参宮線と近鉄山田線が走っており、伊勢、名古屋や大阪方面とを結ぶ動脈となっている。道路では国道23号、42号、166号等が流域内の地域を結んでいる。

また、伊勢自動車道の開通により、人と物の流れが便利になったため、今後の発展が期待される。

伊勢国大絵図　安永８年
【出典：松阪市地図集成】

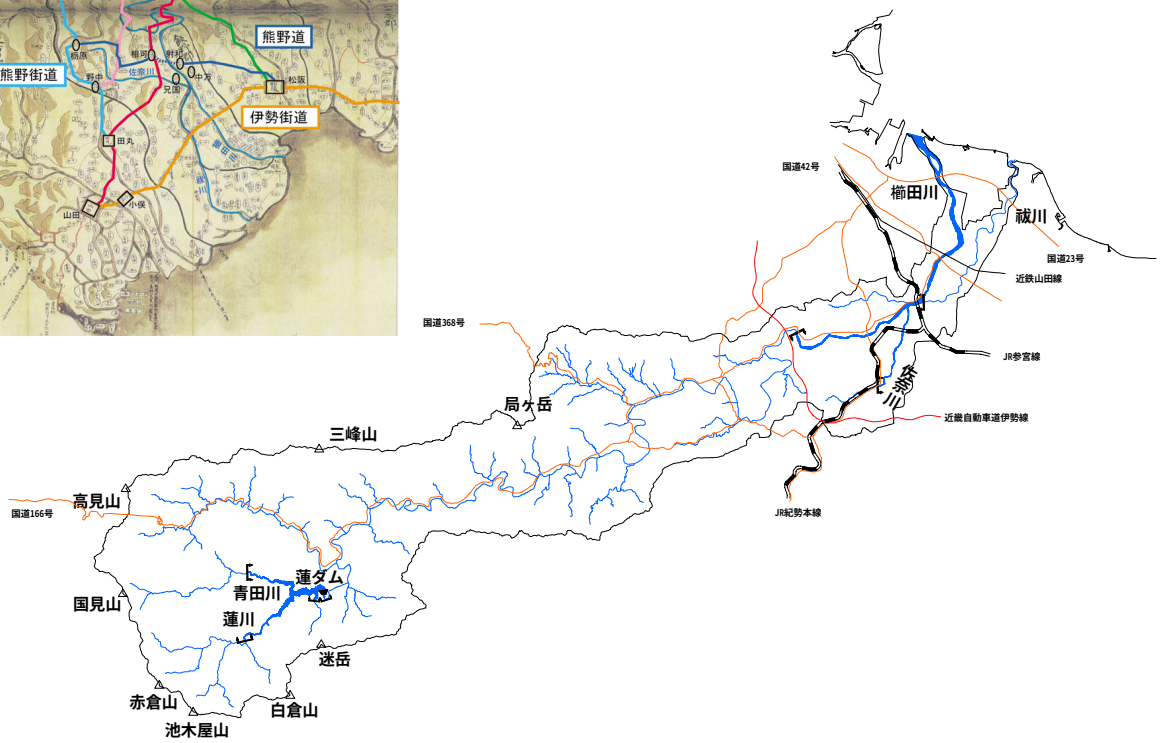


図３－５　交　通　網　図